

# THE FORMATION AND TRANSFORMATION OF CHAM MUSLIM VILLAGES AND TRADITIONAL HOUSING IN THE MEKONG DELTA

HUYNH VAN KHANG

Division of Environmental Planning

17世紀以来、メコンデルタは、クメール族、ベト族、中国人、イスラム教系チャム族に代表される多くの民族のコミュニティが住む地域となっている。その結果、同じ土地において多様で独特の民族が互いに影響しながら、区別的に自らの文化的および宗教的個性を保持している。したがって、文化、社会、信念、建築に対するこうした集団の干渉や影響は明らかである。その意味で、メコンデルタにおけるイスラム教系チャム族コミュニティと彼らの建築の存在は、モスクの建物、川の隣にある木造の高床式家屋だけでなく、移住過程の歴史的な堆積物の結果であり、ベト族、クメール族、中国人など他の民族とイスラム世界との相互の結束の結果である。本研究は、イスラム教系チャム族の既存の村と伝統的な住居の歴史的な形成と変容を明らかにすることで、イスラム教系チャム族におけるメコンデルタの地域建築の個性と民族の多様性を研究することを目的としている。

著者はこの研究を歴史的文書に基づいており、2017年から2019年までの集中的な現地調査によって、村内の2,042戸と村の境界外にある506戸を含む2,548戸のチャム族の9村の現状を調査した。特に、既存する1,988のイスラム教系チャム族の住居と151の住居計画図のデータベースの記録と編集を行い、9つのイスラム教系チャム族の村とメコンデルタのアンザン省にある現存する古い民家の境界が記録された。都市部では、イスラム教系チャム族の村は、独特で、統一された構造的固有性を持つ川を基盤とする生活を続けている。すべての村には境界が定められ、またモスクがコミュニティの中心にある宗教的ランドマークとして位置付けられ、この地域でのイスラムの支配的な影響力が強調されている。さらに、イスラム教系チャム族の伝統的な家屋はイスラム教の原則に従っている。

これらの理由により、イスラム教系チャム族コミュニティの発展における伝統的な価値を維持し、ベトナムの民族建築のデータベースを補充するために、本研究は不可欠である。また、ベトナムのメコンデルタで起こっている急速的な都市化の背景で、現地の文化的多様性を維持するための重要な基盤でもある。さらに、本研究は東南アジア地域のイスラム建築に関する新たな知見にも貢献する。